

令和5年度 学校評価アンケート集計結果							評価	
A…あてはまる B…すこしあてはまる C…あまりあてはまらない D…あてはまらない							AB 評価	評価 基準
保護者17名 回収率100% 教員数12名、回収率100%								
項目		A	B	C	D			
<b>I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実</b>								
①	学校は、地域の保育園や小学校との交流及び共同学習、地域資源を活用した体験的な活動を通して、社会生活に必要な知識や技能、態度を育てている。	保	12	4	0	1	94.1	A
		教	8	4	0	0	100	A
②	学校は、「個別の教育支援計画」を活用して、保護者及び関係機関との支援の経過や合理的配慮を確認し、切れ目のない一貫した教育支援を行っている。	保	10	5	0	2	88.2	A
		教	8	4	0	0	100	A
③	学校は、異年齢での活動や集会活動等、幼児児童同士が共に学び合う場を効果的に設定することで、他者と協力・協働して役割を果たす力を育てている。	保	11	5	0	1	94.1	A
		教	8	4	0	0	100	A
<b>I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成</b>								
④	学校は、学習形態やグループ編成を工夫することで、幼児児童が他者とのやりとりや様々な体験を通して学び合い、主体的に思考し、判断し、表現する力を育てている。	保	11	5	0	1	94.1	A
		教	6	6	0	0	100	A
⑤	授業の中でICTを効果的に活用し、「分かる」「できる」授業作りに努めている。	保	10	6	0	1	94.1	A
		教	8	4	0	0	100	A
⑥	学校は、豊かな心の育成のために、実態に応じた読み聞かせや読書活動等の図書教育の充実を図っている。また、様々な学習経験（行事や校外学習等）の中で、思考、判断、表現する学びを意図的に施し、振り返り活動を行っている。	保	10	5	1	1	88.2	A
		教	9	3	0	0	100	A
<b>I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成</b>							※項目にある「言葉」は日本語・手話・身振り等を示す。	
⑦	個別の指導計画を活用し、自立活動の指導の充実に努めるとともに、各教科等の指導との関連を図り、個々に応じた言語力を育てている。	保	12	2	1	2	82.3	A
		教	7	4	1	0	91.6	A
⑧	聴覚補償や情報保障機器、発音や手話・指文字の適切な活用ができるよう教員の研修を行っている。	保	11	2	0	3	82.3	A
		教	6	6	0	0	100	A
⑨	学校は、外部専門家を招聘した授業研究会の実施や日々の授業改善を行うことで、教員の授業力向上に努めている。	保	12	2	1	2	82.3	A
		教	12	0	0	0	100	A

II 安全で安心な学校づくり								
⑩	他者の気持ちや考えに気づき、主体的に考えて行動する力を育むとともに、いじめに関する教員の研修を行い、いじめ等の未然防止に取り組んでいる。	保	12	3	0	2	88.2	A
		教	9	3	0	0	100	A
⑪	感染症防止対策や校舎内外の安全点検を実施し、安心安全な環境づくりに努めている。	保	13	3	0	1	94.1	A
		教	11	1	0	0	100	A
⑫	防災・防犯への意識を高め、自ら考え安全に行動できる力を育てるために、防災・防犯教育や放射線教育等の充実を図っている。	保	12	3	1	1	88.2	A
		教	11	1	0	0	100	A
⑬	学校は、服務倫理に関わる研修の実施や報告・連絡・相談を行い、不祥事の根絶に取り組んでいる。	保	12	3	1	1	88.2	A
		教	11	1	0	0	100	A
III センターの機能の充実								
⑭	掲示板やホームページの活用、セミナーや保護者対象の学習会等の開催により、聴覚障がい理解や支援のための情報を発信している。	保	13	4	0	0	100	A
		教	9	3	0	0	100	A
⑮	関係機関等との連携を図りながら0歳からの教育相談を実施します。また、保護者のニーズに応じて相談しやすい環境を整えている。	保	12	3	1	1	88.2	A
		教	9	3	0	0	100	A
⑯	聴覚障がい教育の専門性を生かし、保育所・幼稚園・小中学校等への支援を行っている。	保	12	4	0	1	94.1	A
		教	10	2	0	0	100	A

【学校評価・その他ご意見を受けて】

○事案に対する各家庭への説明を瞬時に行ってほしいとの要望がありました。学校全体で、各事案に対する周知徹底を敏速に行い、事案発生からの対応について見直しを図りました。安心・安全な学校を目指し、未然防止に努めるとともに、今後の事案に対しても早急な対応に努めてまいります。

○教員の手話の専門性の向上の要望がありました。手話に対する教職員一人一人の意識を高め、技術面の向上を目指し、校内での研修の機会を設け、また、日々の学校生活や業務の中で手話に触れる機会を増やし、取り組んでいきます。

○評価が二極化していることを踏まえ、校内だけでなく、学校評議員等の第三者の意見を学校教育活動に取り入れ、対応していきたいと考えております。